

第36回大学等環境安全協議会総会・研修発表会 プログラム（案）

開催日：平成30年7月19日（木）13：00より

20日（金）9：00より

場 所：愛媛大学 総合情報メディアセンター・メディアホール

主 催：大学等環境安全協議会

共 催：愛媛大学

連絡先：愛媛大学施設基盤部安全環境課安全衛生管理チーム

住 所：〒790-8577 愛媛県松山市道後樋又10番13号

T E L：089-927-8702

E-mail：daikanky@stu.ehime-u.ac.jp

1日目 7月19日（木） 愛媛大学 総合情報メディアセンター・メディアホール
--

展示 7月19日（木）12：00～20日（金）12：00

愛媛大学 総合情報メディアセンター

12：00 受付開始

13：00 挨拶

大学等環境安全協議会 会長

酒井 伸一

愛媛県知事

中村 時広

文部科学省

未 定

愛媛大学 学長

大橋 裕一

【研修発表会】

13：30 特別講演

「残留性有機汚染物質（POPs）による地球と生物の汚染」

沿岸環境科学研究センター センター長・特別名誉教授 田辺 信介

14：30 プロジェクト報告

15：30 企業ポスターセッション

【大学等環境安全協議会及び実務者連絡会 総会】

16：15 大学等安全協議会総会

1. 平成29年度事業報告・決算報告

2. 平成30年度事業計画・予算案

3. 表彰

4. その他

16 : 45 実務者連絡会総会

1. 平成 29 年度事業報告・決算報告

2. 平成 30 年度事業計画・予算案

3. その他

17 : 15 受賞講演

17 : 45 事務連絡

18 : 30 懇親会【会場：道後温泉 大和屋本店】(バスにて移動)

<http://www.yamatoyahonten.com/>

挨拶 大学等環境安全協議会 会長

酒井 伸一

愛媛大学理事 (学術・環境担当)

宇野 英満

2 日目 7 月 2 0 日 (金) 総合情報メディアセンター・メディアホール

【研修発表会】

9 : 00 一般発表

11 : 55 閉会の辞

大学等環境安全協議会 副会長

見学会 7 月 2 0 日 (金) (A コース定員 30 名, B コース定員 40 名)

12 : 50 総合情報メディアセンターエントランス集合

13 : 00 出発 (A コース、B コース)

【見学場所】

A コース 沿岸環境科学研究センター(CMES)の生物環境試料バンク(es-BANK)

13 : 10~14 : 00 解散 (学内)

B コース オオノ開発(株)低濃度 PCB 廃棄物無害化処理施設

14 : 00~16 時 00 分 (大型バス 1 台利用)

解散場所および予定時間

松山空港 (17 : 30)、JR 松山駅 (18 : 00)、愛媛大学 (18 : 30)

城北キャンパス



アイコン凡例

- ▲ 出入口
- Ⓟ 食堂・カフェ
- Ⓟ 駐車で
- 🛍️ ショップ
- Ⓟ 車いす駐車で
- ☎️ 公衆電話
- Ⓟ バイク置場
- 📺 愛キャンテレビ
- 🚲 駐輪場
- 📄 電子掲示板
- 🏧 ATM
- 🚬 喫煙コーナー
- 🚑 AED自動体外式除細動器

見学予定施設 (A・Bの2コース)

Aコース 生物環境試料バンク(es-BANK) 定員 30名



愛媛大学 沿岸環境科学研究センター

ログイン

生物環境試料バンク (es-BANK)

English



es-BANK 概要

更新履歴

試料データベース

論文データベース

試料提供依頼

ヘルプ

生物環境試料バンク(es-BANK)とは

愛媛大学沿岸環境科学研究センターでは、冷凍保存している試料の提供と新規の受入を積極的に進め、またデータベースを広く公開して、共同研究を通して化学汚染に関わる環境科学の諸研究を深化・発展させることを目標にしています。また、過去に共同研究を展開したアジアの専門家、愛媛大学で学位を取得し世界の研究機関で活躍している研究者、学術交流協定により連携を深めた研究者等で構成される人的ネットワークの利を活かして、今後も世界に類のない生物環境試料バンクの機能を拡充します。

分類群	種数	試料数
鳥類	378	28749
魚類	694	21708
爬虫類・両生類	12	3559
鱗脚類・ラッコ	17	8689
陸生哺乳類	54	9385
鯨類・海牛類	50	36399
無脊椎動物・その他	219	4314
合計	1424	112803

Bコース オオノ開発(株)低濃度 PCB 廃棄物無害化処理施設 定員 40名

オオノ開発(株)では、低濃度 PCB 廃棄物処理に対して分析から最終処分までを行う一貫処理体制を確立いたしました。迅速かつ確実に分析・処理することで保管事業者の皆様の御負担を軽減し、環境への負荷を最小限に抑制して、地域の皆様に貢献できるよう専門事業者としての務めを果たしてまいります。

日本最大規模の大型保管施設

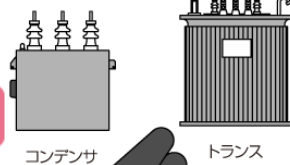


日本最大規模の処理施設



PCB専用貯蔵タンク

300kl (150kl×2基)



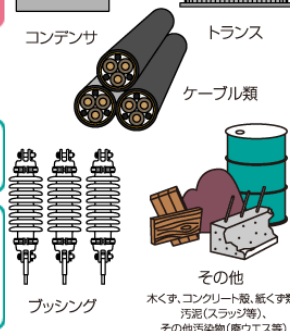
施設保管容量

電気機器等

1t前後のトランス 約600台
(保管スペース約660㎡)

ドラム缶

油・汚染物入りドラム缶 330本
空ドラム缶 330本
(保管スペース約300㎡)



焼却設備

向流式ロータリーキルン	2基
トンネルキルン	1基
バッチ式焼却炉	3基

処理対象物

絶縁油等汚染廃油処理	23.3Kℓ/日
トランス(500kg相当)	約100台/日
コンデンサ(100kg相当)	約50台/日
プッシング(100kg相当)	約70本/日
OFケーブル	約200m/日
汚染物入りドラム缶	48本/日
空ドラム缶	96本/日